



旅行好きのソムリエが、世界のあっちこちから
死ぬ前に一度は見ておくべき町を厳選してご提案します。
私があなただの次の旅をもっとわくわくさせますよ!

家がなければ日々旅になる

ホーム、スイートホーム……その響きによって思い浮かべられる家があるにはありません。胸を張って自分の家と呼べる場所があったのはいつまでだろう？ おそらく数年は前。べつに家出をこじらせているとか、逃亡しながら生きなければならぬのつぴきならぬ事情があるとか、そういうわけではありません。今回は私の普段の生活についてお話をさせていただきます。

少し前から仕事のために（食品催事販売の仕事です）私は国内を四方八方移動しながら生活しています。この原稿を作っている現在は岩手県の盛岡、先週は東京でいて、来週は福島県、そして青森県、名古屋を経由して来月は関西、おそらくその次の月は九州にいます。ひとつの場所に滞在するのは短くて3日、長くても1ヶ月くらいです。

地方で出会った人に、どこから来たの？ と聞かれると、生まれは四国で、分別がつくようになったの

①～③ マンションの一室を週単位で貸し出しているタイプの部屋。名古屋。

④ ホテルで借りた自転車でサイクリング。福島。



は京都(だから話し言葉は関西弁だと思ふ)、今は特に決まった場所はないと答えるしかないのですが、私の答え方がいまいち的を射ていないのか怪訝な顔をされることもままあります。

決まった住居がないと言うと、移動が多いと疲れるでしょう? 早く落ち着けるといいね、と心配してくださる方もいるのですが、曖昧に笑って返すしかない。むしろ毎日決まった場所に帰って、その住まいを維持していくほうが面倒なことではないか? と不思議に思うのです。

小さい頃から比較的引越しの多い家だったせいか、今住んでいる住居は一時的なものではないという感覚が強く、ひとつの場所で長期的に生活することは私にとって慣れないこと、むしろ苦痛すら感じることです。二、三年も同じアパートの部屋で暮らしていると、そろそろ引越しの時期だ、どこか行きたい、いや行かなくて、と胸騒ぎが収まりません。ある研究結果によると、同じ場所ですじつとしていられないという性格は

DRD4-7Rという遺伝子のしわざらしく、有史以来人間は、食物、住居、仲間を見つめるための移動をくり返すうちに、移動する欲求が本能的にすり込まれていったのかもしれない、とのこと。こんなのはいつこの誰が唱えたのかも分からないひとつの説に過ぎませんが、事実私のようにひとと人間が存在するのは確か。とはいえ、日々寝泊まりする場所は絶対に必要。基本的にはウィークリーホテルや民宿に宿泊していますが、どうせ短期間のことなので格安の部屋で充分。1ヶ月の滞在費は定住して生活していた頃の光熱費を含めたアパートの家賃とさほど変わりません。問題といえば、郵便物を届けてもらう住所がない、あとは通院が必要な場合など、定期的に同じ場所に通うことができないということくらいでしょうか。ですが宿主の承諾を得れば荷物は滞在先の住所に届けてもらうことができますし、局留めで近くの郵便局に取りに行くことも可能です。通院に関しては(私は現在歯列矯正

正の治療中でして、ひと月に一度は決まった歯科に行く必要があるのですが)1ヶ月に一度通うことは難しくても、さすがに2ヶ月間行けないということはないので、それでいつかと気長に治療を続けています。ほかに何か問題点といえば：うーん、特にないですね。まあ強いて言えば、キッチンがない部屋が多いので、料理の腕が全くと上がらないということでしょうか。これに関しては幸か不幸か、私は手料理を振舞われたり振舞ったりする機会が皆無でもストレスを感じずに生きていけるので今のところ問題ありません。気分転換や健康のためにごく薄い味付けのものが必要なときもあるだろうと思ひ、手料理用の卓上式ホットプレートを購入してみたのですが、まだ使ったことはありません。口にするものにこだわりがないわけではありませんが、毎食美味しく、心から幸せな気持ちで食事が出来ているので別段必要ないのが現状です。

逆に良いことといえば、余計なも



5~9 宿泊施設の貸し借りができるAirbnbというサイトでとった部屋。この方法ならキッチンや食器付きの部屋を探しやすいはず! 東京です。

10 Airbnbなどで個人の住居を借りる際の鍵の受け渡しは、キーボックスの暗所番号を覚えてもらって管理することが多い。

のを買わない（というか物理的に持って動けるものしか買えない）ので浪費のしようがありません。以前は本やら服やら靴やらを必要以上に買い込んで無駄に部屋のスペースを埋めていた私ですが、ほとんどのものが無ければ無いで諦めがつきます。持ち物が少ないというのは本当に素敵なことです。もし次に新しい靴を買おうとしたら、それは今の靴が履けない状態になったとき、または今の靴よりも断然気に入った靴を見つけたときなので、その時は今の靴はもう必要ないということ。これ以上持ち物が少なくなることも多くなることもないのです。最低限の物で生きることに、新しい物を買わなくても生きていける自分でいることは、心をのびのびさせてくれ、大きな自信になります。

そしてこれが最も重要な利点ですが（考えようによっては問題点でもあります）、深く悩むことがほとんどありません。色々な場所でも種多様な人々に出会うため、人間は自分が作り上げた世界で各々勝手に生きていく自由があるのだ

など日々痛感していますし、刻々と変化していく状況の前では目の前の状況に対応するのが精一杯で、思い悩む段階にまで至りません。もし困ったことになったとしても移動して視線を変えてみれば、あっという間に忘れてしまうことがほとんどです。

もちろん移動生活を勧めているわけでも何でもないので、そうした暮らしに満足している者もいるということ。あくまで個人的な考えですが、生きていくために苦手なことをわざわざ克服する必要なんてありません。自分の得意なことを把握して、それで何とか食べていける環境を整えればほとんどの日は幸せに生きていけます。そんなわけで私はだいたい移動中です。次回からは国内に焦点を当てて滞在記を繋げていくつもりですので、引き続きお付き合いいただければ嬉しく思います。



11 格安の民宿の煎餅布団がわりと好きです。

12 女将さんのいる鳥根の民宿でお夜食をいただいた。栗ご飯！

13・14 田舎のホテルは無料で朝食が付くこともあって有難い。これは高知県。